

● 前回審議会（令和 7 年 2 月 3 日第 5 回リサイクル清掃審議会）で出た委員意見要旨

No.	委員名	ページ	委員意見要旨	事務局コメント
1	南部会長	全体	新旧対照表があると良い。	前回審議会資料から変更した箇所についての新旧対照表を作成しました。（資料第 21-2 号）
2	南部会長	全体	委員の意見に対して、事務局の対応（文章修正など）を示すような資料があると良い。	作成しました。（本資料）
3	二木委員	全体	「モノ・プラン」という呼称は、国が掲げるサーキュラーエコノミーや循環型社会などに先行して、廃棄物をごみとして捉えるのではなく、「モノの流れ」として捉えていこうという先駆的な概念であった。ぜひ大切に継承してもらいたい言葉である。	これからも「モノ・プラン」の呼称を概念と共に大切に継承します。
4	武井委員	全体	環境政策課の「地球温暖化対策地域推進計画」の改定において、タブレットを使って若者へのアンケートを実施しており、非常に示唆に富んでいる。アンケートの結果を若者の声として、ぜひ「モノ・プラン」にも反映することができれば良いと思う。	「文京区地球温暖化対策地域推進計画の見直し(案)」に係る子どもの意見を確認しました。 「2050 年の文京区をどのようなまちにしたいですか?」「動画を見た感想をおしえてください。」という質問に対し、自由回答でゴミやリサイクルを自分事として捉え「ごみの落ちていない綺麗なまち」や「リサイクル率の向上」、「食べ残しなどの食品ロス削減」などの意見が多く寄せられていました。 これらの意見については、「2.3 3Rの課題」の「(1) 分別の徹底」や「(2) プラスチックごみの削減」、「2.4 適正処理の課題」の「(3) ごみ出しマナーの向上」などに反映しています。

No.	委員名	ページ	委員意見要旨	事務局コメント
5	田口委員	全体	回収された衣類が海外への押し付けになっておらずしっかりと役立てられているなど、回収された資源が最終的にどのように役立てられているのかを記載した方が良い。	回収された資源の行先等については、可能なものはコラムに記載する予定です。
6	宮本委員	全体	衣類の回収量を増やすには、トレーサビリティ(※)を踏まえて啓発するのが良いと思う。 ※trace（追跡）＋ability（能力） 製品の生産から消費又は廃棄までの履歴を追跡できる仕組みのこと。	文京区における衣類の回収は、拠点回収のほか、官民共催の子ども服無料頒布会や譲渡会によるリユース、また、本年7月開催予定のステージ・エコではゲスト団体による衣類の国内循環など、様々な取組を行っています。事業の周知啓発に当たっては、回収された衣類の行先等を示すことで、回収量増加につなげていきたいと考えています。
7	宮本委員	全体	カタカナ言葉が多く、リデュースなど分かりづらい。日本語のスローガンにできないのか。	カタカナ言葉は、環境用語として一般的に使われているものを使用していますが、分かりづらいカタカナ言葉については、日本語の併記や巻末の「語句の説明」において対応します。
8	島田委員	1 ページ	現行計画を踏まえての見直しなので、第1章には中間年度見直しの概要だけでなく現行計画の概要も記載した方が良くはないか。	計画の中間年度見直しは、現行計画の実績等を踏まえて行います。第1章には現行計画を踏まえた上での現状と課題を記載していることから、「現行計画の概要」としては記載しませんが、内容としては現行計画についても含まれていると考えています。 なお、第1章のタイトルは、記載内容をよりの確に表すため、「中間年度見直しについて」に修正しました。

No.	委員名	ページ	委員意見要旨	事務局コメント
9	島田委員	2 ページ	1.4 見直しの方向性の「状況の変化」とは、1.2 リサイクル清掃事業をとりまく状況の変化の(1)～(5)のことを指しているのだと思うが、ゼロカーボンシティ宣言の部分に環境政策課実施の若者へのアンケート結果を絡めて記載する等、具体的にどのような変化があったのかを記載した方が良いのではないか。	ここでの「状況の変化」とは、1.2 リサイクル清掃事業をとりまく状況の変化(1)～(5)のほか、第2章リサイクル清掃事業の課題を踏まえた状況と捉えています。状況の記載については、各章で具体的に触れていますので、1.4 では記載しないこととします。
10	南部会長	4 ページ	(1)人口の3行目に句点がない。	句点を追記しました。
11	鎗木委員	5 ページ	口頭で外国人住民が増えているとの報告があったが、課題として記載しないのか。	(2)世帯構成に、外国人住民に向けた取組の必要性和外国人住民人口のグラフを追記しました。
12	宮本委員	9 ページ	(2)プラスチックごみの削減に関連して、4月からのプラスチック分別回収の実施に当たり、回収袋や回収ボックスの補助をしたら回収率が上がるのではないか。	現時点では、回収袋・回収ボックスの配布や補助については考えていませんが、実施後の状況を確認した上で、必要に応じて検討します。
13	和田委員	9 ページ	(2)プラスチックごみの削減に関連して、プラスチックの分別回収に際し、製品に電池が内蔵されているかをどこまで分解して確認しなくてはならないのか、周知してもらいたい。	コードレスの製品は、電池が内蔵されている場合が多いです。容易に電池を取り外せない構造の製品は、無理に外そうとするとその衝撃で発火・発煙するおそれがあるため、分解しないでください。 なお、リサイクル清掃課及び播磨坂清掃事業所の窓口にて、3月から小型充電式電池(30cm未満の内蔵製品含む)の回収を開始しており、区民に対し分解しないよう周知を図っています。

No.	委員名	ページ	委員意見要旨	事務局コメント
14	鎗木委員	9 ページ	(3)食品ロスの削減で、今回の組成分析調査結果では、「食品ロス」の割合が、7.3%から 8.0%に増えていることから、現状の取組内容を踏まえて課題としてさらに強調した方が良いのではないか。	組成分析調査では、他のごみ種の減量幅が大きい場合、相対的に割合が増えることから、家庭から排出される食品ロス量が必ずしも前回調査から増加したとは言えませんが、引き続き高い割合となっていることから、我が国や世界の現状、区が実施している具体的な施策名を追記し、さらに推進していく旨記載するなどの修正を行いました。
15	鎗木委員	9 ページ	(4)事業系ごみの減量で、3 Rだけでなく、今はサーキュラーエコノミーの取組が求められていることから、「3 Rの促進等」と記載した方が良いのではないか。	「3 Rの促進等」に修正しました。
16	鎗木委員	10 ページ	(1)円滑な収集・処理で、「プラスチック分別回収を実施するため、必要となる人員や機材が増加する見込みです。」の記載について、さらに強調して訴えた方が良いのではないか。	既にプラスチック分別回収を開始していることから、「プラスチック分別回収を実施しているため、必要な人員や機材が増加しています。ごみや資源を円滑に収集するには人員・機材・費用の確保が必要不可欠です。」に修正しました。
17	鎗木委員	10 ページ	(1)円滑な収集・処理で、災害廃棄物の適正処理について、「生活環境に影響を及ぼさないよう」だけでなく、早期の復旧・復興のためという視点も入れた方が良いのではないか。	「まちの早期の復旧・復興に資する」の文言を追加しました。
18	鎗木委員	10 ページ	(2)ごみ処理の工程で発生する環境負荷の抑制で、「環境負荷の抑制」だけでなく、廃棄物の処理及び清掃に関する法律にも記載のある「公衆衛生の確保」についても触れた方が良いのではないか。	本項目は、「環境負荷の抑制」について触れている項であり、「公衆衛生」に係る内容は(3) ごみ出しマナーの向上で記載していることから、修正しないこととします。

No.	委員名	ページ	委員意見要旨	事務局コメント
19	二木委員	11 ページ	(5)小型充電式電池の収集・処理で、充電式電池は電子タバコやコードレスイヤホンなど小さなものが、4 月から分別回収を開始するプラスチック製品としても排出される可能性がある。	(5)の記載とともに、引き続き、収集運搬時や中間処理施設等での火災事故防止のため、充電式電池及び充電式電池内蔵製品の適正排出に向けた啓発や注意喚起に努めていきます。 なお、リサイクル清掃課及び播磨坂清掃事業所の窓口にて、3 月から小型充電式電池（30cm 未満の内蔵製品含む）の回収を開始しました。
20	島田委員	11 ページ	(6)家庭ごみ有料化の検討について、文京区だけで解決できない課題なのであれば、位置付けが曖昧になってしまうのではないか。	家庭ごみの有料化は、現行計画から引き続き検討していく課題であり、2 3 区各区がごみ減量施策の最終手段として検討すべき大きな課題であることから記載しています。 なお、家庭ごみの有料化に当たっては、越境ごみや共同処理体制の構築などを勘案し、2 3 区全体で議論を進めていく必要があります。
21	宮本委員	12 ページ	基本理念・基本方針の中に「ゼロ・ウェイスト」の視点も入れた方が良いのではないか。	全てのごみを資源化するなどして焼却や埋立てるごみを出さない「ゼロ・ウェイスト」は、究極の目標ではありますが、本区の現状を考慮した場合、目標としては過大であることから、今回の中間年度見直しでは詳細な記載はしないこととしますが、10 ページ（2）ごみ処理の工程で発生する環境負荷の抑制に『全てのごみを資源化するなどして焼却や埋立てるごみを出さない「ゼロ・ウェイスト」の概念も広まりつつあります。』を追記しました。今後も社会情勢等を注視していきます。

No.	委員名	ページ	委員意見要旨	事務局コメント
22	鎗木委員	18 ページ	事業系ごみについて、(2)現状施策で推移した場合のごみ量の推計と減量目標達成後のごみ量の関係性が分かりにくい。	「表 5-3 現状施策で推移した場合のごみ量の推計」は、家庭ごみ(1 人 1 日当たり)、事業系ごみ(総量)共に、現状の排出量から変化しないことを前提に推計したもので、現在の施策を継続した場合の逓減率を乗じたものではないため、17 ページ 5.2 のタイトルを「現状の排出量で推移した場合のごみ量の予測」、18 ページ「(2) 現状の排出量で推移した場合のごみ量の推計」に修正し、表 5-3 のタイトルも同様に修正しました。
23	島田委員	19 ページ	プラスチックの分別協力率について、先行区の実績では 30%程度、文京区のモデル事業では 44%だったとのことだが、計画で 35%を採用したのはなぜか。	本区でのモデル事業実施に当たっては、自ら協力を申し出てくださった町会で実施したことやエリアが狭くきめ細やかな周知が行えたことなどから、分別協力率が高くなっています。文京区では区民の環境意識が高いことを考慮し、区内全域での実施であっても先行区より高い協力率が得られるとして 35%としています。
24	島田委員	21 ページ	モニター指標に、若者に関する指標を入れられたら良いのではないか。	オープンデータなどから毎年度把握が可能な「ごみ量」や「環境負荷」、「コスト」に関わる若者に特化した客観的な数値指標を設定することが難しいため、モニター指標には若者に特化した指標は加えないこととします。